

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

養殖場からの逸出や遺棄により広がりました。鹿児島県では重要防除種に指定され、屋久島、奄美大島、喜界島、徳之島で確認されています。捕食を通じた無脊椎動物、魚類への影響、自然分布域における養殖個体による在来野生個体群の遺伝的かく乱があります。沖永良部島、与論島などでは侵入が確認されていません。これらの地域では特に逸出などに注意するとともに、見かけたら県自然保護課か市町村にご連絡下さい。

1 基本情報

分類	
目・科名	カメ目スッポン科
種名(亜種名)	ニホンスッポン
学名	<i>Pelodiscus sinensis</i>
環境省カテゴリー	重点対策外来種
県カテゴリー	重要防除種
由来	県内由来外来種
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)
番付表掲載の理由	県内由来外来種
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—
侵入・定着の状況	
自然分布域	日本本土・中国大陸
県内初報告	不明
県内への侵入の経緯	養殖場からの逸出、遺棄
県内の侵入分布	屋久島、奄美大島、喜界島、徳之島
全国の侵入分布	大隅諸島(屋久島)、奄美群島(奄美大島、喜界島、徳之島)、沖縄諸島(伊平屋島、沖繩島、久米島)、大東諸島(北大東島、南大東島)、先島諸島(石垣島、西表島、波照間島、与那国島)
生態学的特性	
生態	食性は基本的に肉食で、両生類(カエル)、昆虫類、貝類など、多様な動物を捕食する。 昼行性で日光浴をする。産卵時以外は水辺から離れない。
形態	甲長は25~30cm。背甲(はいこう)は柔らかな皮膚に覆われ、他のカメのような固い甲羅にならない。また、背甲は円に近い楕円形。鼻の先端が突出している。
繁殖形態	交尾は4月~6月、産卵は6月上旬~8月下旬。孵化までの日数は40~80日、平均60日程度。1回の産卵数は10~40個。 メスは地面に穴を掘り、球形の卵を産出する。
生息環境	ほぼ完全に水生。河川の中・下流域や池、湖沼などに生息。
特記事項	県本土では在来種として生息しています。



2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①捕食を通じた無脊椎動物、魚類への影響。自然分布域における、養殖個体による在来野生個体群の遺伝的かく乱。
県内で特に予想される被害	屋久島、奄美大島、喜界島、徳之島における捕食を通じた無脊椎動物、魚類への影響。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①捕食を通じた無脊椎動物、魚類への影響。 ②養殖場から逃げ出し野生化。
3 対策	
ニホンスッポンを見つけたら	沖永良部島、与論島などでは侵入が確認されていません。これらの地域では特に逸出などに注意するとともに、見かけたら県自然保護課か市町村にご連絡下さい。
見分け方	ニホンスッポンの背甲は非常に平らで丸く、柔らかな皮膚に覆われている。類似種であるクサガメの体色は茶褐色。また、ニホンイシガメの背甲は扁平で黄土色。もしくは黄褐色。いずれも固い甲らとなる。また、鼻の先端が突出していることが特徴的である。
見かけやすい場所・時間	主に昼間に活動する。河川の中・下流域や池、湖沼などに生息。陸上よりも、水中を泳いでいるところを見ることが多い。
防除方法	水域に広く分散して生息するため、効率よく駆除することは困難。魚のアラなどをエサとしたトラップを多数設置することで捕獲が可能とみられる。
防除の取組事例	—
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30060.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 内山ほか(2002)日本の両生爬虫類. 平凡社. 東京